

提出寄与文書概要

提出元 NICT、テラヘルツシステム応用推進協議会

会合名	WP1A
タイトル	(英文) PROPOSED DRAFT NEW REPORT ITU-R SM. [275-450GHZ_SHARING] - Sharing and compatibility studies between land-mobile, fixed and passive services in the frequency range 275-450 GHz (和文) 275-450GHzの周波数範囲内のLMS/FSと受動業務間の共用両立性検討に関する新レポート案
関連課題	WRC 議題 1.15
経緯	WP1Aでは、議題 1.15 の責任グループとして、CPM レポート案のための補助文書として、LMS/FS と受動業務間の共用両立性に関する新レポート草案に向けた作業文書の更新を行い、2018 年 6 月の会合で新レポート草案に格上げしたが、CPM レポートの完成を優先させたために、ロシア、米国、カナダ、日本からの入力文書全てを審議できず、入力文書を統合化した審議未了の文書をキャリアフォワードした(Annex 3 to Doc. 1A/340)。
要旨	<p>前会合に入力した寄書内容(Doc. 1A/321)は議長報告添付文書には組み込まれたが、最終合意ができていない。そのため APG19-4 及び CPM19-2 に入力した内容を踏まえて、再度見直しを行い、下記の提案を行う。</p> <p>① 本文の検討結果をまとめた 8.1 節の LMS と EESS センサー間の結果概要では、全ての EESS センサーに対して特別な条件を付加することなく 275-296 GHz, 306-313 GHz, 319-332 GHz, 356-450 GHz の周波数帯が特定できることを明記する。なお、特別な条件としてモバイルデバイスによるブロッキング損失 18.5dB、又は建物損失 17dB を考慮すると全帯域を特定できることも明記する。8.2 節の FS と EESS センサー間の結果概要では、275-296 GHz, 306-313 GHz, 318-336 GHz and 348-450 GHz において特定できることを明記する。</p> <p>② 8.3 節の全体の検討結果概要では、4 つの Study の結果の表を追加して、275-296 GHz, 306-313 GHz, 318-333 GHz, 356-450 GHz の 4 つの周波数帯が特別な条件なしで最大限で特定できることを明記する。</p> <p>③ Annex 4 の第 5 節の Study 4 の内容の更新では、前会合で提案した 275-325 GHz の検討結果を全て 275-450 GHz の検討結果に差し替える。また、各 EESS センサー(Limb, Nadir, Conical)モードに対する共用検討パラメータを整理した表を追加する。LMS 運用上の特別な条件の 1 つである建物損失は勧告 M. 1653 の数値を使用したことも明記する。さらに FS の仰角の範囲を Conical scanning mode の仰角の一部を含めるために±30 度に変更したことも明記する。</p> <p>④ Annex 6 として CPMS モバイルデバイスによる CPMS 固定デバイスからの放射電力の遮蔽効果を評価した新たな実験結果を追加する。この遮蔽効果による追加損失の推定値を 18.5dB に修正する。</p>